

# 平成 22 年度 大学職員情報化研究講習会 ～応用コース～ 開催要項

<http://www.juce.jp/kenshu/oyo2010/>

主催：社団法人私立大学情報教育協会 大学職員情報化研究講習会運営委員会

日程：平成 22 年 11 月 10 日(水)～12 日(金)

会場：浜名湖ロイヤルホテル（静岡県浜松市）

## 開催趣旨

大学教育における人材育成の成果が問われている。社会の信頼に応える学習成果を学生ひとり一人に確実に身に付けさせ、生涯に亘り就業できる力を育成していることを保証しなければならない。この社会的責任を果たす上で、大学構成員が一体となった取組が必要不可欠であるが、とりわけ大学職員には教育支援、学習支援、人材育成支援に関する諸課題に向きあうための戦略的な見識を備え、教員と協働して事業の計画立案、実施、点検・評価ならびに改善に資する実践的能力が強く求められている。

本コースは、学士課程教育が直面する危機的状況を認識し、これを打開するために大学職員が担うべき職務を再認識し、課題解決に向けて力が発揮できるよう、ICT（情報コミュニケーション技術）の戦略的な活用、情報システム構築の課題、情報の取り扱い、持続可能な情報環境の在り方などを中心に研究討議する。

## 1. 期待される成果

- ・ 大学教育を取り巻く環境の変化について認識を深めるとともに、今まで気づかなかった自大学の現状や課題を発見する
- ・ これからの大学職員に求められる役割を大学の教育目標との関係から捉えなおし、大局的な視野でコーディネートやマネジメントに関わろうとする意識を獲得する
- ・ 大学の情報化を推進しようとする際に向き合わなければならない人的、組織的課題を認識するとともに、これを解決する上での視点を獲得する
- ・ ここで培った他大学職員との人的ネットワークを活用し、研究講習会終了後も自大学の課題解決にあたっての情報収集や意見交換を行う場を形成する

## 2. 参加対象者

- ・ 私立大学・短期大学に所属する職員で、大学の業務を 1 年以上経験した方（当協会への加盟・非加盟は問わない）
- ・ 本研究講習会の開催内容に関連する当協会賛助会員企業の方

## 3. 日程・会場

日程：平成 22 年 11 月 10 日(水)午後 0 時 30 分～12 日(金) 正午解散

会場：浜名湖ロイヤルホテル

(〒431-0101 静岡県浜松市西区雄踏町山崎 4396-1 ☎053-592-2222)

※ 本研修は合宿研修となります。参加者は全員上記ホテルへ宿泊いただきます。

※ 原則としてツインルームとします。健康管理については十分ご留意ください。部屋の割り当ては当方で行います。

※ 最寄り駅 JR 東海道本線「舞阪」駅（東海道新幹線「浜松」駅より約 5 分）より送迎バスを用意しております。

## 4. 募集定員：180名

5. 参加費： 加盟校・・・1 名につき 28,000 円 / 非加盟校・・・1 名につき 56,000 円  
参加費の支払い方法は、「7. 参加費の支払い」をご覧ください。その他に、宿泊費（2 泊 5 食付）として 27,500 円を 1 日目受付時に直接ホテルへお支払いください。

## 6. 申込方法

各大学で参加希望をおとりまとめの上、10 月 12 日(火)までに、本研究講習会 Web サイトからお申込いただくか、本開催要項に添付の「参加申込書」にご記入いただき下記宛に F A X 願います。参加申込者についての必要事項は必ず全員分記入してください。締切日を過ぎても定員に余裕があれば受け付けますので、お問い合わせ下さい。

※ FAX:03-3261-5473（お問い合わせ Tel:03-3261-2798）

## 7. 参加費の支払い

参加費は、大学ごと一括して11月9日(火)までに銀行振込によりお支払いください。

＜振込先＞ リソな銀行 市ヶ谷支店 普通預金口座  
口座番号：0054409  
名義人：(社)私情協  
シャ)シジョウキョウ

※ キャンセルの場合は11月5日(金)までにご連絡いただければ振り込み手数料を差し引いた参加費を返金します。それ以降のキャンセルは、資料代等の実費を請求します。

※ 当日のキャンセルは、ホテルのキャンセル料が100%発生しますのでご了承ください。

## 8. プログラム概要

### ◆ 事前・事後コミュニケーション

10月中旬から研究講習会前日まで、分科会ごとに事前の研修準備としてメーリングリストもしくはWebを利用して意見交換、ミニレポート、情報収集等を行います。これらの進め方については、参加申し込みされた方にメールで個別連絡差し上げます。

研究講習会終了後は、各分科会でレポートや最終成果物の作成、行動計画の起案等を行い、研修の成果を大学で活用できるようにメールでコミュニケーションを継続します。

### ◆ 全体会（初日午後0時45分～午後3時15分）

#### ① イントロダクション

研修運営委員長より本コースの開催意図、大学を取り巻く様々な課題、社会が大学教育に求めること等について解説を行い、研修を始めるにあたっての基本的な認識を共有します。

#### ② 事例研究「学士力育成のための情報化戦略」

今、学生の学びを中心に据えた新たな学士課程教育の展開が求められています。例えば、学生たちの学びへの意欲を喚起し、学びに向き合う姿勢と態度を変革し、みずから主体的に学び、考える力を徹底的に鍛え上げるための実践型・参加型教育プログラムなどです。ここでは、教員と職員が協働しながらICTを効果的に活用し、「学士力」育成に取り組む先駆的な事例を取り上げ、教育改革にあたって私たち職員が備えるべき視点について考えてみます。

＜事例1＞ 「ケータイ」を活用した新たな学びのデザイン（仮題）

＜事例2＞ 学びを支援する場としての大学図書館が果たすべき役割（仮題）

#### ③ 分科会オリエンテーション

「創造的技法」の解説など、分科会でのディスカッションを活性化するためのオリエンテーションを行います。

### ◆ 分科会（初日午後3時40分～最終日正午）

全体会終了後、次の6つの分科会に分かれ、テーマ別研修を行います。いずれかひとつの分科会を選んでください。各分科会の概要は、次ページ以降をご覧ください。

第1分科会	学生の主体的な学びを支援するための学生情報の活用
第2分科会	教職協働で進める教育支援のマネジメント
第3分科会	大学情報のオープン化とICT活用
第4分科会	教育学習支援の充実と強化を図るための図書館の役割と機能
第5分科会	情報活用の重要性と情報システム部門の役割
第6分科会	教職員・学生間のコミュニケーションを活性化するICT活用戦略

<http://www.juce.jp/kenshu/oyo2010/>

## 分科会概要

第1分科会	学生の主体的な学びを支援するための学生情報の活用
<p>各大学が掲げる「学士力」を学生に確実に身につけさせるためには、教職員それぞれが専門性、組織的対応力を発揮し、連携・協働する中で学生の学びを支援し、指導や助言の質を保証する戦略が問われている。電子的な「ポートフォリオ」や「学生カルテ」などのシステムは、目的ではなく手段である。重要なことは、学生情報の活用を通じて現状の問題を整理・分析、共有し、学びの支援を組織的に取り組めるようにする情報通信技術活用のマネジメントである。</p> <p>本分科会では、学生情報を組織的に活用する事例を踏まえ、実践的な学習支援の情報活用モデルの構想作りを通じて、学生一人々の質を保証する支援の仕組みを探究する。</p>	

### 討議テーマ

- ・ 「学習ポートフォリオ」活用の可能性と課題  
学生自ら授業の到達目標に対する学びの成果を点検・評価し、自信がない点・できない点を明らかにする情報通信技術を活用したポートフォリオ構築の意義を確認する。その上で、大学としての補完学習、個人学習の体制など学士力の質保証支援の仕組みを探究する。
- ・ 「学生カルテ」情報の具体化と組織的な活用戦略の策定  
一人々の学生を支援するため、学生の基本情報、成績・進路情報、相談・指導記録情報などの個人情報情報を教職員が総合的に共有する「学生カルテ」の内容について整理し、学生情報の一元管理のあり方、組織的な活用戦略について探究する。

### 獲得目標

- ・ 「ポートフォリオ」や「学生カルテ」を構築する教育的意義について理解を深める
- ・ 「ポートフォリオ」や「学生カルテ」を真に価値あるシステムとして活用するための組織的課題と職員の役割を認識する
- ・ 自大学の現状を分析し、導入によって期待される効果、その活用のための組織的な課題を整理することができる

### 想定される事例

- ・ 学生自らの「Plan-Do-Check-Action」を促す「ポートフォリオ」の構築と運用
- ・ きめ細かな個別支援を展開するための「学生カルテ」の構築と運用

### 参考：昨年度の討議の様子

事例研究、グループ討議、成果発表という一連の流れを通じて「ポートフォリオ」と「学生カルテ」の特性が徐々に明らかになり、研修会終了時点で参加者全員がそれぞれの教育的意義を識別的に認識することができた。あわせて、これらのツールを活用して学生の学びを支援するには、個々の教職員が専門性を発揮するとともに、組織的に連携・協働することが重要であるという認識を深めることができた。

6つのグループが導き出した結論には、次のような本質的な観点が盛り込まれていた。例えば、建学の精神や教育目標との関係、学生の学びや成長を評価する規準の確立、取組の活性化を図るための組織的体制、教職員の意識変革と協働の促進、費用対効果の追求、個人情報の保護などである。参加者は、戦略的な学生支援モデルを創出するプロセスを通じて、課題解決に必要な視点を獲得するとともに人材育成支援、教育支援に果たすべき職員の役割について自覚を高めることができた。

★ 昨年度の報告書・・・ <http://www.juce.jp/kenshu/oyo2009reports/g1.html>

## 第2分科会

## 教職協働で進める教育支援のマネジメント

各大学では教育改善に向けた方策の実現に向け、中央教育審議会の提言も参照しながら、教職員が連携した新たな教育支援体制の構築と組織的な推進が求められている。例えば、ICTを活用した入学前学習、初年次教育、キャリア形成支援教育、体験型・双方向型授業、大学間および産学連携授業などの取組があげられるが、これらは教職協働による組織的なマネジメントがあってこそ実現する。

本分科会では、「教職協働で進める教育支援のマネジメント」とは何かについて、上記の取組を題材にその具体像を議論し、ICTを活用した教育改善戦略とその期待される効果、推進する際の課題について検討する。

### 討議テーマ

- ・ 教育支援の具体例の整理  
職員が関わる教育支援にも様々な取組が考えられるが、その具体例を整理しながら、職員として何ができるか、何をしなければならないか、理想的な教育支援とはどうあるべきかという視点で捉えなおす。
- ・ 実践的なマネジメントモデルの構想  
教育支援の具体例から一つあるいは複数の題材を選び、ICTを活用した実践的な教育支援のマネジメントモデルを構想する。
- ・ 実現に当たっての課題の探求  
実践的なマネジメントモデルの構想を通じて、問題の本質を探求し、課題解決へ向けたICT活用の方略を導き出す。

### 獲得目標

- ・ マネジメントモデルの構想を通じて、教職協働で進める教育支援の具体的なイメージや意義を理解する
- ・ 自大学において教育支援のマネジメントを展開する際の課題を明らかにする
- ・ 教育改善の視点からICT活用の有効性と課題を認識する

### 想定される事例

- ・ 職員による教育支援の企画・立案， マネジメントへの取組み

### 参考：昨年度の討議の様子

メーリングリスト上での事前の意見交換やe-learningを活用したFD・教育改革推進モデルの事例紹介（日本福祉大学）を受け、職員が教育支援の企画・立案に関わることの意義について認識を深めることができた。自由闊達な討論の中から構想された“ICTを活用した教育改善戦略”とその実施を支援するマネジメントモデルは、次のように戦略的で完成度の高い内容となった。

- ・ 学士教育入門コンテンツ：「日本学」～日本の高等教育の底上げプロジェクト～
- ・ 大学の教育力を高める新任教員研修～教職協働で高める研修～
- ・ 効果的な初年次教育の実行におけるマネジメントモデル

研修後、参加者からは「業務での改善提案を行った」、「他部署や教員へ働きかけを行った」、「プロジェクトや委員会の立ち上げを計画する」といった報告が寄せられ、自大学における課題解決のための実践的な研修としての成果が認められた。

★ 昨年度の報告書・・・ <http://www.juce.jp/kenshu/oyo2009reports/g2.html>

大学は人材育成という公的な役割を社会から付託されており、教育研究を始めとする大学の各種事業についての情報のオープン化に積極的に取り組む責務がある。これは、教育研究活動の状況・成果・課題等を広く社会に情報発信する取組であり、ステークホルダーを含む社会からの理解と支援・協力を得るために必要不可欠な活動である。文部科学省においても省令を改正し、オープンにすべき事項を法令上明確にし（義務／努力義務）、教育活動の透明化を促進するとしている。また、就業力の向上を図るため、社会的・職業的に自立できる能力の育成を法律で義務化することにしており、企業及び地域社会との連携・協力によるキャリア形成教育の充実・強化も喫緊の課題となっている。

本分科会では、説明責任としての教育をはじめとする各種情報の公開がなぜ必要か、大学活動の「見える化」の意義について考えるとともに、公開の範囲、方法などについて認識を共有するとともに、教育・研究活動の充実・向上、大学の存在価値を高める手段として、ICTの戦略的活用の可能性と課題について考察する。

### 討議テーマ

- ・ 情報のオープン化の意義、課題と可能性の整理  
オープン化の対象となる情報を洗い出すと共に、具体的な項目を挙げてその意義と課題、ICT活用の可能性と課題について共有する
- ・ 広報活動における情報のオープン化の現状と課題の整理  
自大学の教育・研究のあり方、方向について学内外の壁を取り払い相互評価できる場所や契機を得る、また活性化するための課題について考える
- ・ 具体的な情報オープン化とICT活用の事例研究  
事前研修で課せられた自大学や他大学の情報のオープン化とICT活用について、具体的な事例をもとに現状と課題について考える

### 獲得目標

- ・ 討議を通じて、情報のオープン化の意義を明らかにする
- ・ 自大学の情報のオープン化とICT活用について、現状と課題を明らかにする

### 想定される事例

- ・ 大学の社会的責任（USR）を含む多様な情報のオープン化、広報活動についての多様なスキームや先進的なICTを活用した情報公開の取り組みについて

### 参考：昨年度の討議の様子

大学の規模・所属の枠を越え、大学の現状と課題を把握・整理し、ステークホルダーに訴求する情報の収集・教職員連携の体制づくり・戦略的なWebサイト構築について創造的なディスカッションが展開された。最終成果物として、ステークホルダー向けの年間情報スケジュールマップや機動力のある理想的な学内広報体制についてアイデアが具体化した。また、受験生向けのサイトを構築する上で効果的な学生生活がイメージできるコンテンツ、受験生の目線に合わせたキャラクターを含むコンテンツ、質問やクレームを引き出す工夫など興味深いアイデアが発表された。

参加者からは「自身の広報マインドを再確認する必要性を感じた」、「学内への広報活動を行い、広報業務を理解してもらおう」、「この研修で包括的に考えるきっかけを得た」などの声が寄せられ、広報担当者として積極的な業務改善に活かそうという意欲的な姿勢への変化が認められた。

★ 昨年度の報告書・・・ <http://www.juce.jp/kenshu/oyo2009reports/g3.html>

注) 昨年度は「大学広報におけるWebサイトの戦略的構築と差別化」をテーマに掲げました。本年度は、「大学情報のオープン化」を中心的なテーマとして取り扱います。したがって、上記研修成果は、あくまでも参考情報としてご覧下さい。

教育現場の課題として、学生を主体的、自立的な学び手に転換させることが難しいという現状がある。これを解決する上で図書館の役割は重要である。例えば、図書館職員がその専門性を発揮し、教員や他部局と連携しながら学生に基礎的な学習技法を身に付けさせるなど、学習支援活動の一翼を担うことが期待される。また、教員のニーズを把握し、教育コンテンツのアーカイブ化やデータベース化、情報提供元との交渉による電子教材の整備や共同開発を行うなど、ICTの観点から教育支援活動に関与することも期待される。しかし、現状は教員や他部局との連携という点で十分な取組みに至っていない。大学教育を支える図書館としてその役割と機能を十分に発揮するためには、組織の構築と図書館職員の育成が喫緊の課題と考える。

本分科会では、図書館が教員及び他部局と連携して行う学習支援、教育支援の可能性を考察する中で、自大学における問題抽出と課題解決にあたって備えるべき視点を獲得することを目指す。

#### 討議テーマ

- ・ 図書館を活用した新たな学習支援プログラムの構想  
大学の質保証と学士力の意味を図書館における学習支援の観点から整理してみる。また、先行事例に学びながら、図書館インフラ（施設・情報）や学術資料の付加価値サービスに求められる新たな役割について考えてみる。その上で、図書館を中心とした戦略的な学習支援プログラムを導き出す。
- ・ 学習支援プログラムを実践するにあたっての組織的な運用体制  
新たな構想を実現するための実施計画について、教員や他部局との連携という観点から検討を進める。例えば、図書館から関連部局にフィードバックできる情報の洗い出しと効率的な提供方法などについて検討する。

#### 獲得目標

- ・ これからの図書館が担うべき学習支援機能を具体的にイメージすることができる。
- ・ 教員や他部局と連携した学習支援体制を構築、運用するにあたって解決すべき課題を認識することができる

#### 想定される事例

- ・ 図書館を中心とした新たな学習支援機能を構想するうえで参考となる事例（課題解決型の情報リテラシー教育や e-Learning システム、学習ポートフォリオなどの ICT 活用事例など）
- ・ 図書館が教員や関連部局と連携、協働して組織的な学習支援を展開する事例

#### 参考：昨年度の討議の様子

3つのグループに分かれ、学生の自立的な学習を支援する図書館の機能について、次のような具体的な支援プログラムの構想を通じて検討を進めた。

- ・ 図書館が備えるべき学びの支援機能の明確化－学習困難学生(退学予備軍)への支援
- ・ 学生生活を包括的に支援する図書館
- ・ 心を開く図書館

いずれも、図書館内部の限られた視点に陥ることなく、現在の図書館が置かれた立場を俯瞰しながら客観的な視点で考察した。あわせて、学生一人ひとりに対する支援方策や学生サポーターとの協働といった視点も加え、これからの図書館が実施すべき学習支援のかたちを模索した。その結果、参加者全員が、大学の組織的課題をふまえた上で、図書館としてどう支援していくべきかという視点を養い、図書館における課題解決が大学教育の活性化と大学改革に貢献するという大きな視点を獲得することができた。

★ 昨年度の報告書・・・ <http://www.juce.jp/kenshu/oyo2009reports/g4.html>

## 第5分科会

## 情報活用の重要性と情報システム部門の役割

大学には「知の拠点」として、高度かつ多様な機能が求められている。たとえば、教育コンテンツの蓄積と再利用、研究成果情報の社会還元、経営情報の戦略的活用、生涯学習の充実などが挙げられる。これら、求められる機能の実現には情報技術の活用が不可欠で、情報システム部門は「システムの運用管理」から「知の資産の運用管理」、「高度化する教育研究の支援」、「安定した IT 利用環境の提供」へと、視点・軸足の転換を迫られている。

本分科会では、経営的視点から、大学における情報環境や情報システム部門の役割・あり方についての検討を行い、それを踏まえて、視点・軸足の転換、教育研究や業務における情報資産の管理運用、教育研究の支援、安定した利用環境の提供など、求められる役割の実現に向けて、現場および経営層や関係部門へのマネジメントを、経営資源やコストの観点も含めて探求する。

討議テーマ：(3)～(5)は、グループ（7～8名で構成）の討議テーマにより選択する

### (1) 視点・軸足転換の意義

大学を取り巻く環境の変化と求められることについて分析を行い、視点・軸足の転換の意義について認識する。

### (2) 情報システム部門の課題認識

情報システム部門に求められる役割と、実現にあたっての課題などを洗い出す。

### (3) 情報資産管理運用のあり方

大学における情報資産の認識および洗い出しを行う。

守るべき情報と活用すべき情報について点検評価を行う。

### (4) 高度化する教育研究をいかに支援するか

課題掘り起しのための教育現場とのコミュニケーション

新たな事業への取り組み ～いかに計画し実行するか～

### (5) 安定した利用環境の提供

経営資源の有効活用

最新の ICT 技術&デバイスのメリット・デメリット

## 獲得目標

- ・ 情報システム部門の視点・軸足転換の意義、目的を認識する。
- ・ 自大学の情報システム部門の将来的な役割を認識する。
- ・ 情報資産の全体像を把握し、これをマネジメントする視点を獲得する。
- ・ 教育研究の支援について新たな視点に立った取り組みを企画・マネジメントする能力を獲得する。

## 想定される事例

- ・ 情報セキュリティの自己点検事例
- ・ 情報、情報技術を活用した、新たな教育研究支援の取り組み

## 参考：昨年度の討議の様子

3つのグループが、それぞれ以下のテーマを掲げ、現状分析と課題解決へ向けた検討を行った。テーマは異なるものの、いずれのグループも情報システム部門が役割の転換期を迎えていることを深く認識し、「情報資産活用をベースとしたマネジメント」、「情報経営部門への意識改革」、「情報資産の活用やそのマネジメントに取り組める体制へのシフト」といった観点から討議が展開された。

- ・ 情報システム部門の課題認識として“近い将来の情報資産活用とアウトソーシング”
- ・ 大学として活用して行くべき理想の組織“情報システム部門”
- ・ 情報資産管理をするための情報システム部門のあり方

研修後、参加者からは「事務組織に横断的な委員会を設置し、情報資産の有効活用に関する総合的計画を作成する」、「大学全体での情報共有化や業務の複数体制化を進める」など本分科会での獲得目標に沿った積極的なアクションプランが提出された。

★ 昨年度の報告書・・・ <http://www.juce.jp/kenshu/oyo2009reports/g5.html>

大学が社会に有用な人材を輩出する教育機関としての責任を果たし、学生ひとり一人の確かな能力育成を図る上で、教職員と学生が一体化したきめ細かなコミュニケーションが重要な役割を果たす。例えば、入学前の出前授業や先輩学生、卒業生との交流、授業における即時の理解度チェック、オフィスアワー等の個別学習指導、学生相互の協調的な学習活動や授業評価での意見交流など、お互いの信頼関係にもとづく豊かな教育学習環境の整備が求められている。さらに、就業観・職業観を醸成する就業力育成支援やメンタルケアを含む学生生活支援などが喫緊の課題に位置づいている。

本分科会では、教育学習支援、キャリア形成支援ならびに学生生活支援の展開に不可欠な教員、職員、学生相互のコミュニケーション活動に着目し、これを活発化、豊富化する ICT 活用戦略を構想しながら、そこに期待される効果と実践にあたっての課題を明らかにする。

### 討議テーマ

- ・ 授業における教員と学生のコミュニケーションツール
- ・ スタディスキル、基礎学力を支援するコミュニケーションツール
- ・ 学修や学生生活における FAQ など ICT を活用したコミュニケーション
- ・ 中途退学者を抑止する SNS やポータルなどのコミュニケーションツール
- ・ 入学前教育や卒業後のコミュニティ形成を可能にするコミュニケーションツール

### 獲得目標

- ・ コミュニケーションツール活用の基本的な考え方、可能性とその限界について理解ができる
- ・ 学生支援体制を強化するための組織的な「教職員の役割・関わり方」の認識と理解ができる
- ・ 大学生生活の不安を払拭する実践的な学生支援モデルの構想ができる
- ・ 自大学の現状における課題認識と課題解決への方策を考案ができる

### 想定される事例

- ・ 授業中の理解度確認に活用できるコミュニケーションツール
- ・ 学習支援のためのコミュニティ形成のためのツール
- ・ 学生ポータルや学生同士のつながりを強化するコミュニケーションツール
- ・ 自らの学びに入れない学生や中途退学者を抑止・支援する SNS 活用

### 参考：昨年度の討議の様子

3つのグループに分かれ、コミュニケーションツールの活用に関して現状分析を行い、問題の要因・原因を掘り下げ、教職員が協働しながら学修と学生生活を支援する ICT の活用について議論した。2つのグループは、離脱者・中途退学者予備軍を防ぐため、学生・教職員の信頼関係の構築、学生同士の繋がり強化、学生の居場所づくりを実現する SNS をテーマとした。他のグループは ICT 活用した FAQ の整備と相手の顔を見たくなるようなコミュニケーションとこれを具現化するサイトの構築をテーマとした。

これら実践的な ICT 活用モデルの構想を通じて、参加者はコミュニケーションツールによる学生支援の重要性と可能性、解決すべき課題について認識を共有することができた。例えば、職員が教員と協働して予習・復習や学習方法の習得を支援するコミュニティの形成や、対面のコミュニケーションに導くサイトづくりを目指したことは、職員が教育をデザインすることに積極的に参画しようとする姿勢の表れといえる。

★ 昨年度の報告書・・・ <http://www.juce.jp/kenshu/oyo2009reports/g6.html>



参考：平成21年度 参加者の声  
～ アンケートより一部抜粋 ～

- ◎ 各グループに分かれてディスカッションすることで、全員参加型の研修の効用を改めて実感しました。困っているときに答えではなく、ヒントを授けていただくのも効果的な運用だと実感しました。この気づきは、自大学に戻ってもすぐに実践できそうです。(30代・第2分科会参加)
- ◎ 全国の私立大学で沢山の職員が一生懸命頑張っていることを実感しました。このモチベーションを自大学に戻っても下げないように努力を続けたい。また、他大学の方とのご縁も大切にしたいと思う。(30代・第1分科会参加)
- ◎ 今回初めて研修に参加しましたが、とても充実した研修だと感じました。初日の講義・事例などはとても貴重な内容でした。ディスカッションで他大学の話を聞くことで、将来像を考えながら現実を見つめることができた。(30代・第5分科会参加)
- ◎ ポートフォリオに関してあまり理解できていなかったが今回の研修に参加してようやく理解できた。教職員に対して学生カルテ、ポートフォリオに関しての重要性を伝え、理解を得なければならないと思いました。(30代・第1分科会参加)
- ◎ 活発な意見交換が出来て、有意義な研修を受けることができた。学生を思う気持ちや向上していきたい気持ちはたくさんの方がもっていると実感した。(30代・第6分科会参加)
- ◎ 大学職員として、という意識を改めて再確認した上で、自分の業務を振り返るきっかけになった。(30代・第4分科会参加)
- ◎ まず、今までの自分自身のシステム活用を振り返ってみたいと考えます。より効果的な学生支援のための活用を考えたい。またこの、研修で得たこと、アイデアとして思い浮かべたことを積極的に教職員へアピールしたいと考えています。(20代・第1分科会参加)
- ◎ 今までの仕事に対する意識も変わり、様々なことに目を向け、『気づく』力をつけて行きたいと思います。(20代・第3分科会参加)
- ◎ 業務では目の前のことを処理することしか考えられていないので、研修で包括的に考えるきっかけを得ることができたのは非常に貴重でした。(30代・第3分科会参加)
- ◎ 細部は異なるが、大きな部分の悩みは、各大学で共感できる部分が多いと感じた。やはり同じ業職の方々と知り合える機会として、研修会の必要性を感じる。(30代・第5分科会参加)
- ◎ 研修全体のスケジュールに討論時間が多かったので、”どうなるんだろう”と正直不安に思っていたのですが、講義+他大学のみなさんとの討論は自大学の改革への考え方、取り組み方、また問題を改めて考えるいい機会となりました。いろいろなアイデア、事例を出しながら、短い時間でここまでできると思っていなかったのも、大変有意義な研修となりました。(30代・第2分科会参加)
- ◎ 今まで参加した出張とは比べ物にならないほど、ハードかつ中身の濃い研修会でした。参加者が主体的に初対面どうしのグループでひとつの目的を成し遂げることは、想像したよりも楽しく有意義に進められた。(40代・第4分科会参加)
- ◎ 同じ悩みを持つ方々と話すことで、自学の状況が逆に明らかになりました。研修そのものも得るものが多かったが、それ以外の場での交流にも大きな役割があったと思います。ディスカッションだけではなかなか深い話にはなりにくいですが、事前のメーリングリストによりある程度カバーできたと思います。(30代・第5分科会参加)
- ◎ 密度の濃い3日間でした。日頃ゆっくり考えをまとめる機会がないため、今回の研修は情報収集以外にも自学の問題点の洗い出し、振り返りもでき、大変有意義でした。(40代・第1分科会参加)
- ◎ 建学の精神と教育目標を常に念頭において業務を検証していくことの大切さと、目的を明確にしつつも、その遂行の途中で見直し(振り返り)をすることの効果について学びました。(40代・第1分科会参加)

平成 22 年度 大学職員情報化研究講習会～応用コース～ タイムテーブル

	1日目	2日目	3日目
		9:00	9:00
		分科会	分科会
		10:20	10:20
		休憩(適宜)	休憩(適宜)
		10:40	10:40
		(引き続き分科会)	(引き続き分科会) 討議まとめ
		12:00	12:00
		昼食	アンケート記入 順次解散
12:45	受付	13:00	
	開会・イントロダクション	(引き続き分科会)	
13:30	事例研究 「学士力育成のための 情報化戦略」	14:50	
		休憩(適宜)	
15:00	分科会オリエンテーション 事務連絡・移動・休憩	15:10	
		(引き続き分科会)	
15:40	分科会	17:00	
		休憩	
17:30	チェックイン・休憩	18:00	
		夕食	
18:30	夕食・懇親会		
		ディスカッション	
20:00	フリーディスカッション		

※都合により変更する場合があります。